

中国上海遠征レポート

千葉南支部長(中国支部長代理) 奥村 幸一

コロナ禍が収束し5年振りの中国遠征となった。生涯の師である緑代表の“死力達成！”の言葉を胸に秘めて、まさに日中友好の架け橋。我 中国の龍とならむ！と裸一貫で中国上海の地に、弟啓治(師範)が渡ってから奇しくも20年の佳節の年となった。今回の遠征は塚越支部長と入来建武選手が同行した。孫師範代のリクエストだった。自分と啓治は孫支部長のことを今でも“師範代！”と呼ぶ。啓治が中国支部長になって最も信頼して師範代に任命した男である。

今回の上海遠征、二人の世界チャンピオンが大活躍した。二人のお陰で昇段審査会もセミナーも大成功に終わった。夜の部も大盛況だった😊😊

4月18日(木)、羽田で固めの盃を交わして上海に向かった。上海浦東空港には孫師範代と北京道場の趙責任者、鄭州道場魏責任者が迎えに来てくれていた。ホテルチェックイン前に世界で二番目に高い超高層ビル「上海タワー」に連れて行って貰った。せっかくの機会ですからと、陽が落ちるまで待つことにした。120階建て632mのビルを見上げる様と上海を一望する夜景は圧巻だった。初日の食事は中国四川料理の名物「火鍋」料理でもてなしてくれた。唐辛子を始めとする中国特有の香辛料で真っ赤に煮えたぎった火鍋の料理にさすがの世界チャンピオンも途中から降参して普通のスープで食べていた😊

午後7時からの食事会が、日の入りと交通渋滞でレストラン到着が8時30分となり遅れた。1時間半遅れにもかかわらず、箸も付けずに待つ3人の責任者がいた。上海道場指導員の王 雯と空港まで迎えに来てくれた趙さん、魏さん。しかも、翌日の昇段審査で3人とも参段を受ける身でありながら、日本から来た師範と世界チャンピオンを待っていてくれたのである。こういう所にも啓治の魂が伝わっているなど感動した。

二日目の午前中は、三国志で有名な孫健が母のために建てたという上海で一番古い「龍華寺」の観光をした。そして、午後からは今回遠征の一つのメインである昇段審査会。宿泊場所ともなった「ゴールデンリバー・ビューホテル」の屋上階の会議室で行われた。ホテルロビーや審査会場に今回の為に作ったというポスターや等身大のパネル、横断幕が掲げられていた。孫師範代の心意気に3人で感動した。自分が5年振りの中国となったことから中国全土の全責任者10名が二段、参段挑戦となった。塚越支部長は2回目の中国訪問で、初めての建武選手はガチの組手に驚いていた🔥🔥🔥

3日目は責任者や黒帯一般部、少年部など総勢90名を対象にチャンピオンセミナーを行った。二人の世界チャンピオンを揃って見るだけでも感動ものなのにダブルでの技術セミナーに“シュワーイ！（凄

い）、リーハイ！（カッコイイ）”の大連発だった。自分が単独での遠征の時には一度も聞いたことがない

言葉だった😊 受審者の中には2m/130kgの巨漢もいた。建武選手が組手に参加してセミナーは最高潮に達した、二人の世界チャンピオンセミナーは大感動で終わり、最高の指導になったに違いない。昇段審査の後も、セミナーの後も、参加した責任者や道場生達と歓迎会を兼ねた懇親会を行って大いに交流を深め盛り上がった。写真撮影とサインだけで1時間も要し嬉しい悲鳴だった😊

最後の夜は懇親会の後、自分の部屋で3人の反省会をする予定だったが、責任者道場生達も飛び入り参加し、日中友好よろしく最高に盛り上がった。

建武選手が優勝した昨年10月の第13回世界大会。中国からも組手に2名、型に2名の選手が出場した。そして、今回の全責任者達の昇段。孫師範代は今年1月インドネシアで開催されたアジア地区の昇段審査会で四段になった。啓治が中国に新極真会の種を蒔いてから20年！小さいながらも綺麗な花を咲かせ、小さいながらも実を結んだ。中国支部は大躍進、大発展を遂げた。

今回の遠征で新極真会の絆を感じた。決して師を忘れぬ弟子達の恩と感謝の心を感じた。

孫穎傑、生涯の師範代である。この男がいなかったら中国支部の発展はなかった。啓治が倒れ、中国支部は存続さえしなかったかもしれない。

『天の時を得て 地の利を生かし 人の和を重んじ・・・

中国の龍となれ！新極真会水滸伝

この道より 我を生かす道なし この道を歩く！

龍翔鳳舞(奥村啓治)』

自分にとっては、弟啓治(師範)の魂の伝統継承の旅であった。

最後になりましたが、中国遠征にあたりビザ申請から渡航資料作成まで数か月に及び準備して下さいました事務局国際課の皆さん、孫師範代、4日間お世話になった責任者道場生の皆様に心から感謝申し上げます。

塚越先生、建武、花を添えてくれて本当にありがとう！感謝しかありません。謝謝！謝謝！

SUPER謝謝😊